

第 1 回一庫公園管理運営協議会 議事要旨

日時	令和 6 年 7 月 3 日（水） 13：30～15：30
場所	一庫公園 ネイチャーセンター会議室
内容	1. 開会 2. 出席委員数報告 3. 委員紹介 4. 議題 (1) 一庫公園の管理運営について (2) 「県立都市公園のあり方検討」について (3) その他 ①公園協賛等イベント開催予定 ②「管理運営協議会」開催日程（予定） 5. 閉会
資料	1. 議事次第 2. 出席者名簿 3. 議題 (1) 一庫公園の管理運営について (2) 「県立都市公園のあり方検討」について 4. 一庫公園パンフレット 5. 一庫公園イラストマップ
参加者	別添資料 1 「出席者名簿」の通り

1 開会

事務局より、①傍聴希望者はいないことの報告

②協議会資料及び議事録は公園 HP にて公開されることの報告

③資料の確認 行った。

2 出席委員数の報告

事務局より、出席委員数が 12 名であることの報告を行った。

3 委員紹介

事務局より、委員、委員外出席者、事務局職員の紹介を行った。

4 議題【全体進行：服部会長】

(1) 一庫公園の管理運営について

事務局より、別添資料 2 を用いて、説明を行った。

(山瀬委員) 別添資料 2 の P. 6、P. 7 の大雨や台風による災害の写真について、斜面の崩壊が見られるが、どの程度の崩壊であったのか教えていただきたい。

- (事務局) 岩盤は相当固く、表面の数十センチ程がはがれ落ちたような崩壊であった。
- (山瀬委員) 写真で見る限りでは、根元から木が倒れてしまっているのも、しっかり根を張れる状態ではないように認識した。
- (事務局) 木の根が通常は下に潜るが、横に広がってしまっており、台風や大雨の時にすぐに倒木してしまうといった状況である。
- (上田委員) 野生生物の獣害対策に取り組んでいるということだが、野生生物の捕獲だけでなく植生の保護柵といった対策にも取り組んでいるのか。
- (事務局) 服部先生からご紹介いただいたネットを使用し、公園の一部で実験的に10メートル四方のシカ柵を設置し、対策に取り組んでいるところである。
- (上田委員) エドヒガン等の重要種が当公園にはあるので、金銭面も考慮しつつ、シカ柵の面積や数を増やすことも、検討していただきたい。
- (事務局) 現在ワイヤーネット等にも取り組んでいるところである。
- (飯田委員) シカ柵等の有効な対策について情報があれば、提供させていただきたい。
- (事務局) 当公園の課題である落石や倒木について、対策等何か考えがあれば教えていただきたい。
- (山瀬委員) 枯木は見た目等で判別できるため、しっかり伐採等による樹木管理をすることが必要である。また、生きている木に関しては、樹木の種類によって、下に根を張る木もあれば、横に広がって根を張る木もあるため、分けて考える必要がある。本来は深く根を張るアベマキやクヌギが、薄い土壌であるがゆえに、下に根を張れないときが非常に危険であり、倒れやすい。そのため、そのような深根性の樹木が大きくなっているときは、早めに樹木の上部を軽くすることが防災的に重要かと思う。落石を樹木で防ぐという考え方もあるが、まず倒木自体を防ぐことを優先したほうがよいと思う。それにより、落石のスピードを遅くする等の効果は見込めるのではないかと思う。
- (服部会長) 一庫公園では、伐採を約10年周期で実施し、高木になる前に木を切っていたので安全性は高かった。危険性が高まる前に、伐採するべき木から切っていく対応も必要であると思う。

(2) 「県立都市公園のあり方検討」について

公園緑地課より別添資料3を用いて、「一庫公園について」と「自然環境保全」の説明を行った。

(中野委員) ひとくらすのクラブの活動の内容は、日常の維持管理・特別な維持管理・緊急かつ危険な場合のどれかに当てはまると思うが、資料を見る限りでは、その活動をするにあたりいちいち許可を得なければならないようなニュアンスに感じる。

(公園緑地課) 本日の目的は、昨年度までの明石公園等での取り組みを説明することであり、また各公園の差異を積極的に認めることも県の方針である。そのため、このルールをそのまま一庫公園に適用しようとは全く考えていない。次回(12月4日)の管理運営協議会で、県からの案を示させていただき、あり方検討に関する議論を進めていきたいと考えている。

- (山瀬委員) 防災というのがキーワードになると思う。別添資料 3 (2) の低未利用ゾーンでは、自然環境保全の目標が設定されていないが、目標がないというのはいり得ないので、設定するべきだと思う。
- (公園緑地課) 令和 4 年からあり方検討の議論を進めてきたが、山瀬委員のおっしゃる、防災という観点が抜けてしまっていたことは、一つ反省点であると考えている。台風等による被害が甚大化している現状を踏まえると、防災の視点を加えていくべきだと思うので、参考にさせていただく。
- (大北委員) 管理運営協議会でゾーニング図を作成するということだが、その完成までは、通常の管理を行うという認識でよいか。また、指定管理者の裁量についてうかがいたい。
- (公園緑地課) そのように思っていたら問題ない。また、裁量等については、今後の協議の中で決定していただければと思う。
- (服部会長) どのような目標林を想定して、ゾーニング図を作成されたのか。
- (公園緑地課) 現時点での状態に合わせてゾーニング図を作成したというのが実態であり、目標林を決めたうえでのゾーニング図ではない。
- (服部会長) やはりゾーニング図を作成するのであれば、目標林をきちんと決めたとえで取り組まなければならない。そういった意味では明石公園もゾーニング図を作成し直す必要があるように思う。また、ゾーニング図を作成すること自体は良いと思うが、経費的な部分はどのように考えているのか。
- (公園緑地課) ゾーニング図作成に係る予算としては、全くないのが現状である。
- (服部会長) 明石公園のゾーニング図は誰がどのように作成したのか。
- (公園緑地課) 事務局が素案を作成し、それをもとにあり方検討会の中で議論し、ゾーニング図の完成版を作成した。
- (服部会長) 詳細なゾーニング図を作成するのであれば、植生に詳しい人を入れる必要があるように思う。
- ゾーニング図の案を作成する場合は、事務局が作成するということになるのか。
- (公園緑地課) 公園緑地課と事務局で協力しながら作成することを想定している。
- (事務局) 最近倒木が多いため、どこまで報告をしなくてはならないのか。作業等を考慮すると、全てを報告することは難しい。
- また、森のクラブでの活動では、情報発信が必要になる内容もあるかと思うが、ボランティアとして活動していただいております、また樹木の状況に応じて活動しているため、計画的に情報発信をするというルールは、難しいのではないかと思います。
- (公園緑地課) ただ今の意見も含めて、みなさんと意見交換しながら案を作成していくことを想定している。
- 今までに当公園での樹木伐採に関して、公園利用者等から批判的な意見が寄せられたことはあったか。都市部の公園を中心に、樹木伐採に関してそのような意見が寄せられることがあった。
- (中野委員) そのようなことは 1 度もない。逆に森のクラブの活動について、毎回協議会に諮り合意形成をしなければならない理屈があるとは思えない。当公園では兵庫方式に基

づいて長い間、きちんと樹木管理を行ってきた。

(公園緑地課) 明石公園では、現在、樹木伐採において1本1本確認を実施しなければならない。一方で、当公園では長年、樹木伐採による適切な管理を行っているということを積極的に発言していただくことは非常に重要であると思う。両極端な公園があっても良いと考えている。

(服部会長) 姫路城では、江戸時代の姿を取り戻すとして、城内の樹木の伐採を進めたが、非常に反発が大きかった。原因の1つとしては、情報共有不足が考えられる。そのため、事前に樹木管理等の情報共有を行うことは必要に感じるが、一庫公園では10年に1回伐採を行うという管理方針を説明しておけば、いちいち伐採の度に説明しなくては良いのではないかと思う。

また、ゾーニング図をきちんと作成するのであれば、ある程度の予算も必要であると思う。

先程、兵庫方式の植生管理について話が出たが、「里山を学ぶ」という資料にそれについて記載があるので、一読いただきたい。

公園緑地課より別添資料3を用いて、「活性化」の説明を行った。

(大北委員) SNS等で意見収集をする際に、極端な意見をどのように整理するのかということも重要と考える。

(公園緑地課) 昨年度までのあり方検討会ではヒアリングも実施したが、その中で非常に前向きな意見をいただくこともできた。公園を普段使いしている方から意見を聞くことは非常に重要だと認識している。様々な意見があるとは思いますが、事務局等と情報共有をし、対応していきたいと考えている。

(服部会長) 参考に明石公園における取組が記載されているが、明石公園では以前からボランティア団体があったのか。そのボランティア団体は協議の場のどれに当てはまるのか。

(公園緑地課) 以前からあった。地元の高中生と草刈りの活動等を行っている。みんなのみらいミーティングで、ボランティア団体の活動を発表していただいた。

(山瀬委員) 意見は変化しやすいが、設定したルールは頻繁に変えることは難しいと思う。そのあたりを上手く調整する必要がある。

(公園緑地課) その通りである。

(服部会長) 自然環境保全も活性化も重要だと思うが、この2つはあまり関係ないように感じる。2つの関係について教えていただきたい。

(公園緑地課) 明石公園で民間活動導入前の調査を行ったが、情報発信が不足していたため、誤解を招き、混乱をもたらしてしまった。そこで、情報発信等のルールについても検討すべきではないかという考えのもと、活性化に関してもあり方検討で整理していくという方針になった。

(山瀬委員) 1本1本の倒木の情報を公開する必要はないと思うが、非常に重要な情報であると思う。どの木を伐採するのかといった優先順位を決める手がかり等になると思うため、情報の整理をしておく必要がある。また、ある程度情報が集まってくると、ど

の場所が倒木しやすいか等の傾向も見えてくるため、その情報を公開すれば良いのではないかと思う。

(大北委員) 1シーズン通しての倒木の情報を公開する対応も良いのではないかと思う。

(事務局) 来園者に対して、どこまで情報提供するべきか、判断が難しいと思う。倒木の情報ばかりだと、危険な公園だと認識される可能性があるのではないか。

(大北委員) むしろ情報発信の方が、危険性の除去に積極的に取り組んでいる公園として認識されるかもしれない。

(服部会長) 倒木などの危険性が低い有馬富士公園と比べると一庫公園は危険と判断される可能性はある。情報発信するかどうかは別として、情報自体は植生管理上必要であるため、整理しておくことは重要である。

(久原委員) 夏は、丘の流れでの水遊びを楽しみにしているが、すぐ水温が高くなってしまいうので、何か手立てがあれば、対応していただきたい。

(事務局) 水深が浅いので温まりやすく、また水はポンプで循環し使用しているので、ポンプの発熱の影響もある。常時新しい上水を入れることは予算的には大変厳しく、根本的な解決は難しい。

(三木委員) SNS等で情報発信をすると危険な公園という印象が付きやすいので、危険な部分に看板を設置する程度の対応が良いのではないかと思う。

明石公園のみらいミーティング等は、できたばかりの仕組みである。そのため1年以上様子をみてから、他の公園に展開する方が良いのではないかと思う。

(3) その他

事務局より、①公園協賛等イベント開催予定について、「ひょうご北摂里山ライド」、
「川西一庫ダム周遊ファンラン」の紹介

②「管理運営協議会」開催日程（予定）について、第2回が12月4日
（水）、第3回が2月26日（水）であることの説明 を行った。

5 閉会